



Report 2024

事業・社会・環境活動



みらいへ
かえる
コープ
TOTTORI COOP



鳥取県生協 2030年ビジョン

ともに生きる

～笑顔と思いやりでつながり、夢があふれる「くらしの協同」を実現します～



鳥取県生活協同組合

事業・社会・環境活動報告 発行にあたって

弊組は1950年12月に「鳥取県東部勤労者消費生活協同組合」として産声をあげ、今年度が創立74年目の事業年度となります。引き続き「地域勤労者生協」としての歴史を持つ伝統ある生協として、創設者の志を大切にしながら地域社会の期待に応え、組合員のくらしに役立つ生協としてこれからも地域貢献して参りたいと思います。

今日、私たちを取り巻く経済・社会状況は平和で人間らしく暮らしたい、生きたいという基本的な願いの実現もままならない状態を強いられ、また人類の活動そのものが「環境危機」が叫ばれるほど地球に大きなダメージを与えてしまう生活や経済活動を行っています。アメリカの科学誌が毎年発表する終末時計は人類滅亡の「真夜中」まで残り90秒と2年連続で過去最短と報告され、気候変動や核兵器の使用リスクなどの要因を取り上げています。

日本生活協同組合連合会は1951年の創立総会で「平和とより良き生活こそ生活協同組合の理想であり、この理想の貫徹こそ現段階においてわれわれに課せられた最大の使命である」を創立宣言として採択しました。今まさに私たちは生協運動を通じて「平和とより良き生活」の実現へ向けた取り組みを強めていく必要があります。

弊組はこの間一貫して組合員の力、また役職員の力を結集し、誰もが安心して暮らせる社会の実現、また平和や環境、エシカル消費などの取り組み推進で持続可能な社会の実現を目指してきました。「持続可能な開発目標SDGs」が国連で採択され8年以上が経過してきたものの、残念ながらこの間に世界の飢餓、貧困、格差は拡大する一方であり、気候危機対策としてのパリ協定も目標達成は遠い状況となっています。改めて取り組みを強化していくため2023年には「鳥取県生協のSDGsアジェンダ」を策定し「みんなが幸せにくらせる社会」を目指し、さらに目標実現に向けた取り組みを進めています。

併せて「鳥取県生協の2030年ビジョン」（“ともに生きる”～笑顔と思いやりでつながり夢があふれるくらしの協同を実現します～）を実現するため2021年度より「第9次中期方針」の取り組みにより必要とされる基盤づくりを進めました。今年度から「第10次中期方針」として次なるステップに3年間取り組むことで「2030年ビジョン」を名実ともに広範囲な分野で実践していきたいと考えています。

本報告書は、弊組としてこの1年間の事業活動と社会的取り組みについて取りまとめたものです。皆様のご助言を頂きながら幅広く活動をすすめるとともに、引き続き改善に努めていく所存です。今後とも御指導、御支援をよろしくお願い致します。



鳥取県生活協同組合
代表理事 理事長 井上 約
Hitoshi Inoue

編集方針

はじめに

鳥取県生協は総合マネジメントシステム（CMS）に基づくコンプライアンス体制の整備及び社会的に有効な取り組みをすすめています。事業・社会・環境活動報告書「CSRレポート」は品質、環境、個人情報保護、労働安全衛生などの取り組みを、組合員や取引先、行政などのステークホルダー（利害関係者）のみなさまに対して、適切な情報開示を行うことを目的に発行しています。

【報告期間】

2023年4月1日～2024年3月31日

※一部、上記期間以前もしくは以後直近の活動内容も含まれています。

目次 Contents

- ・ごあいさつ／編集方針／目次（Contents）…………… 1
- ・鳥取県生協の2030年ビジョン／鳥取県生協のプロフィール… 2
- ・事業・活動の紹介…………… 3
- ・組合員活動・食育・平和の取り組み／生活支援の取り組み… 6
- ・社会貢献活動…………… 7
- ・職場環境の整備、安全運転の取り組みなど…………… 10



鳥取県生協の2030年ビジョン

ともに生きる ～笑顔と思いやりでつながり、 夢があふれる「くらしの協同」を実現します～

鳥取県生協 2030年ビジョン



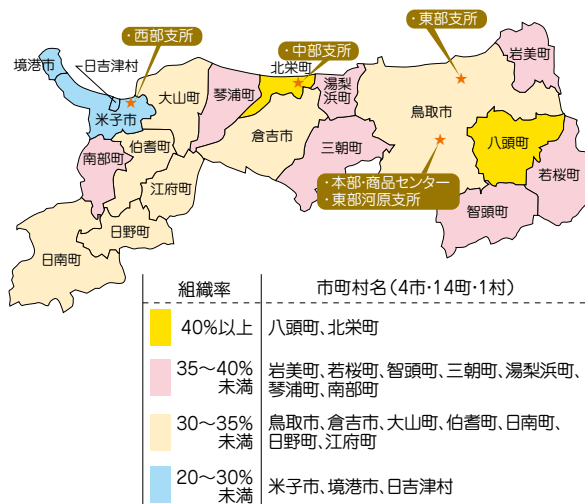
鳥取県生協のプロフィール (2024年3月31日現在)

鳥取県生協の理念

1. 思いやりでつなぐ、人間らしい豊かなくらしの創造。
2. 参加・自立・協同で学び成長できる多数者の組織。
3. 地域との協同、連帯でつちかう地域社会への貢献。

名 称／鳥取県生活協同組合
本部所在地／鳥取県鳥取市河原町布袋597番地1
理 事 長／井上 約
事業内容／供給事業、共済事業
総事業高／76億2,685万円
出 資 金／22億2,855万円
職 員 数／296人 (正規、定時、出向者含む)
組合員数／67,006人
事 業 所／本部・商品センター、支所4箇所
子 会 社／(有)コブサービスとっとり

●鳥取県市町村別組織率一覧表 (2024年3月31日現在)



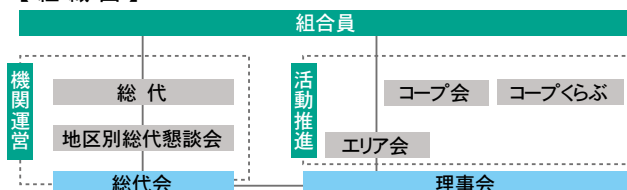
Ⅰ経営体制

鳥取県生協の経営組織

組合員の代表である総代が、意見を持ち寄って参加し、1年間の活動と事業を振り返り、まとめと次年度の方針を決定する機関を総代会といいます。理事会は、総代会で決定された活動方針を月毎に具体化する他、生協全体の活動・運営に関する政策や方針を決定します。監事会は生協の財産状況や理事の業務執行状況の監査を実行し、監査に関する重要な事項について討議します。

健全で透明性の高い経営が実現できるよう、内部統制システムの整備の実施などをすすめています。

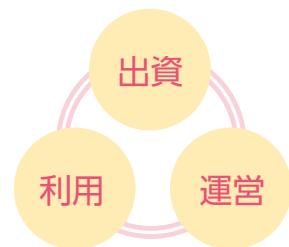
【組織図】



事業・活動の紹介

生協は「生活協同組合」の略で、「協同組合」の一つです。

消費者一人ひとりがお金(出資金)を出し合い組合員となり、協同で利用・運営する組織です。



三位一体の原則

共同購入事業



班

班は、3人以上のグループでご利用できます。
毎週ご指定いただいた場所へ、決まった曜日、時間にお届けしています。



個人配達

おひとりでもご利用ができ、ご自宅へ商品をお届けしています。
個人配達の手数料を減免するサポート制度「さぽーとくん」があります。



ココステーション

開設時間内のご都合の良い時に、商品をお受け取りいただけます。県内17ヶ所(ミニ東部、ミニ河原含む)にあり、自宅や職場などのお近くのココステーションをご利用いただけます。

コープアプリ



コープアプリでは、ネット注文(えれんず)に加え、「レシピ注文」「配達状況確認」「イベント参加申込」などがご利用いただけます。また、2024年4月からは各種手続きのWEB化もスタートしました。現在15,926名にご登録いただいています。(2024年3月31日現在)

個人配達サポート制度 さぽーとくん		下記条件に該当する方は個人配達の手数料が減免となります。	
制度名称	制度条件・内容	制度名称	制度条件・内容
赤ちゃんサポート	妊娠中、または0歳のお子様がいっぱやう方 【完全無料】1年間無料(0円) 1〜3歳のお子様がいっぱやう方 3歳の誕生日を迎えられるまで 【完全半額】半額125円(税込137円)/回	介護者サポート	ご本人またはご家族(同居)が介護認定を受けておられる世帯 【完全半額】半額125円(税込137円)/回 ※介護認定は要介護が対象(要支援は除く)
シニアサポート	年齢が65歳以上で主に単身またはご夫婦のみでお住まいの方 【完全半額】半額125円(税込137円)/回 ※別生計の同居家族がおられる場合は別途ご相談ください。	免許証返納サポート	ご夫婦2人世帯(同居)または、おひとり世帯で組合員本人を含むご夫婦のいずれかが、運転免許証の自主返納を行い「運転経歴証明書」等の交付を受けておられる方 【完全無料】1年間無料(0円)
障がい者サポート (心身に障がいのある方を含む)	ご本人またはご家族(同居)が障害者手帳をお持ちの方 【完全半額】半額125円(税込137円)/回	※配達手数料は1回あたりの金額です。 ※個人配達サポート制度「さぽーとくん」をご利用の場合は、産前産後給付の提示が必要となります。 ※個人配達サポート制度「さぽーとくん」をご利用の方はご利用金額に応じた割引が適用されません。	

鳥取県生協は、赤ちゃんとそのお母さん・お父さんを応援します!

赤ちゃんサポートクラブ

特典 その1 お子さんが1歳の誕生日を迎えるまで
2週に1回 サポート商品をプレゼント!

特典 その2 妊娠中もしくは、お子さんが1歳の誕生日を迎えられるまでにご登録いただくと
ご登録時から個人配達手数料が1年間無料
さらに 赤ちゃんが3歳の誕生日を迎えるまで 半額!

「はじめてばこ」の取り組み



県内の各市町村が取り組む少子化対策や子育て支援事業と、生協の子育て支援活動などを連携するために、鳥取県内全市町村と「子育て支援に関する連携協定」を結んでいます。

さらに、BSS山陰放送主催の「Hello! Dear Baby」の取り組みとも連携し、鳥取県内に生まれてきた赤ちゃんへ「はじめてばこ」をお届けする取り組みを行っています。

2023年度は2,206家族に「はじめてばこ」をお届けしました。



法人・団体向けの利用制度

病院などの医療施設、介護などの福祉施設、学校や保育などの教育文化施設を対象として、法人・団体として生協の利用ができる制度(出資金は不要)があります。

法人や団体で生協が利用できます!

対象施設

- 医療その施設・医療施設
- 保育施設
- 介護施設・社会福祉施設
- 学校その他の教育文化施設

生協利用のココが便利!

1 カタログを見て買いたい物がわかる!

2 安い物やかさばる物も運んでくれる

3 アレルゲンやアレルギーも対応できる

ご利用方法

1. 営業所へお電話
2. 営業所へお越し
3. 営業所へお電話

夕食宅配事業（コープきッチン）



「高齢者支援」や「食事の準備に困っておられる方へ食生活の支援」等を目的に、2011年4月より全県エリアで夕食宅配事業を開始しました。

2023年度は、1日当たり約1,800食の利用をいただきました。おみそ汁や休日用の冷凍商品のお届けも行っています。

声 The Voice

とても良い味付けでバランスが取れているので嬉しいです。美味しいです。



↑お届けしているお弁当の一例です。

←やわらかく作られたお弁当の一例です。



夕食宅配お届け

共済・保険事業

相互の助け合いによって、組合員のくらしの個人的リスク、社会的リスクに備える手段の一つとしてCO・OP共済があります。死亡や災害など、不測の事故が生じた場合に、組合員同士で「相互に助け合う」という精神で行う保障です。

2023年度は、2,825名の方にご加入いただき「たすけあいの輪」が広がりました。

CO・OP共済は、1984年に誕生し、「たすけあいの輪」が広がることで組合員の願いや想いを形に保障内容も充実してきました。みんなの力でつながり、ささえあい、組合員と家族によりそい、新しい「たすけあいのかたち」とよりよい明日のくらしを一緒につくります。

共済マイページでは、共済の手続きや保障内容の確認がおこなえる契約者向けWebサービスとしてサポートしています。

また、組合員のくらしを総合的に守り守るために、共済を中心としながら全国制度の団体保険（ケガ保険、介護保険、三大疾病保険）との一体的なおすすみ活動を行っています。

声 The Voice

掛金もお手頃で、保障内容も厚く、何より入院後にお電話し、書類送付してから振込みまでのスピードが速くて嬉しかったです。子ども達にも勧めました。



『コープサービスとっとり』では、ケガやがん、三大疾病、介護に備える全国制度の団体保険や自動車保険、生命保険なども取り扱い、組合員の幅広いニーズにお応えしています。

その他、コープサービスと通りの事業

2023年度創立20周年を迎えたコープサービスと通りでは、組合員のくらしにお役立ちできるハウスクリーニングやピアノの調律、ふとんの丸洗いなど、普段のくらしをより豊かにするくらし応援サービスを展開しています。また、「はるやま」「洋服の青山」などで組合員「提携店サービス」CARDを提示すると、お得な割引特典でご利用頂けます。

その他、住宅リフォームやコープ葬祭も提携会社と一緒に運営しています。



エアコンクリーニング

《くらし応援サービスの紹介》 レンタルモップ、ハウスクリーニング、ピアノの調律と買取、ふとん丸洗い・リフォーム、シロアリ駆除、福祉・遺品整理、コープ車検、新車購入応援サービス、耳の聞こえ相談、宅配買取など

産直の取り組み

安全安心でおいしい農産物を求める組合員の声に応えるとともに、日本と鳥取の豊かな農畜水産業の振興に貢献するための産直事業に取り組んでいます。現在、17団体26品目で産直提携を結んでおり、毎年「産直 虹のつどい」「産直ミニ懇談会」「せいきょうまつり」等で、生産者と組合員が交流し、学び合いながら、パートナーシップ（協力関係）の発展に努めています。



鳥取県生協の産直三原則

- (1) 生産者と生産地、栽培・肥育方法（農薬・肥料・飼料等）が明確であること
- (2) 組合員と生産者が交流できること
- (3) 産直事業として、適正な取引価格を追求し、事業の継続発展が進められること



5年ごとの「周年」を迎えた産地のみなさんへ、組合員から募集したメッセージを一冊のアルバムにして届ける「産直つながるプロジェクト」に取り組みました。産地からもメッセージをいただき、機関紙を通じて組合員へ発信し、産地と私たちの想いと絆を深めました。



大山こめ豚みとんの生産者へアルバムをお届けした際の様子

2023年度は、
産直提携15周年 大山こめ豚みとん、
産直提携35周年 さくらのこめたまご
産直提携5周年 泥付き白ねぎ、小松菜
の産地にメッセージをお届けしました。

大山こめ豚みとんの産地からの
メッセージ動画をご覧ください。



「産直 虹のつどい」を開催しました

産直商品や水産加工品を生産している生産者・メーカーと組合員が直接交流を行う「産直虹のつどい」を開催しました。

2023年度は「笑顔でつながる 産直の輪」をテーマに、活動報告や直接交流を行い、生産へのこだわりや苦労、持続可能な生産について学び合いました。



生産者と組合員の交流の様子

組合員の願いが形になる商品開発

組合員で構成される「商品開発テスター会議」を開催し、組合員から寄せられる「こんな商品があったらいいな」の声や要望について、おしゃべりや改良を繰り返しながら組合員の願いを形にする商品開発を行っています。



2023年度商品開発
テスター会議メンバー

声 The Voice

自分たちの出した声が実際に商品化されたり、改良につながると嬉しい。他の組合員さんにもおすすめしたくなる。

「生協だからこそ」の商品を広げる取り組み

「安心・安全」を基本に、組合員のくらしと健康に貢献し、産直や地産地消の視点を大切に「生協だからこそ」の商品を、組合員活動とも連動して学びながら利用普及しています。

商品選定にあたっては、コープ商品や産直商品を中心に「地産地消、エシカル、食育などの継承、健康で元気な体づくり、食のつくり手への感謝の気持ち、安心・安全への願い」などのキーワードから選定しています。



2023年度に開発された
「産直牛バラたれ漬け」

「食の安全政策（鳥取県生協版）」の理解を深める取り組み

食の安全を取り巻くさまざまな問題の重層化、行政の仕組み・科学的知見の変化などを踏まえ、鳥取県生協としての考え方を改めて整理し、食の安全を求める組合員の願いに応え続けていくための取り組みをすすめています。

食の安全政策の主な項目

- 「食の安心・安全」とは
- 衛生管理に対する考え方
- 産直に対する考え方
- 化学物質の規制と使用基準に対する考え方
- 輸入食品に対する考え方
- 表示に対する考え方
- 食生活提案
- 商品をお届けするにあたり大切にしたいこと



※「食の安全政策」は鳥取県生協のホームページで公開しています。



「たべる*たいせつキッズクラブ」での
食品添加物実験教室のようす

品質管理の取り組み

コープ商品とは、生協の仕様で作られた開発商品で「安全・安心・適正な価格・より良い品質」等、組合員のさまざまな願いから開発されてきました。鳥取県生協では、鳥取県生協開発商品、日本生協連開発商品、コープCSネット開発商品等を扱っていますが、これらの商品は、生協の仕様に基づき契約された取引先で生産され、工場や産地での製造（生産）記録や原料の証明管理などを徹底しています。

また、コープCSネット^{※1}と協力し、商品の安全性の確保や、トレーサビリティの一環として工場点検や産地点検を定期的に行っています。点検の際は、契約された仕様書通りに生産されているか、衛生上の問題、農薬の使用状況の確認などを行い、不具合があれば改善指導はもとより、必要に応じて取り扱いの中止などを行っています。

組合員からの商品に対する意見やお申し出などについては、真摯に受け止め迅速な対応を心がけています。特に商品事故については、全国の生協組合員からのお問い合わせ・お申し出を専用の管理システム「クイックプロ」で一括管理し、商品の異変が疑われる場合は関係者全てにその情報が連絡さ

れます。「クイックプロ」には、その対応結果も含めて情報が蓄積され、全国の生協間で情報を共有しています。

2021年6月1日施行の改正食品衛生法により制度化された「すべての食品等事業者が行うHACCPに沿った衛生管理^{※2}」について、事業運営本部内に設置した「食品安全推進チーム」で検討を重ね、事業所ごとに「衛生管理計画」を作成し実施しました。

また、食品衛生法が定める「営業届」も厚生労働省の「食品衛生申請等システム」により届出を行っています。

※1 コープCSネット（生活協同組合連合会コープ中国四国事業連合）とは、中四国9県の地域生協が出資し、事業運営をすすめる事業連合です。

※2 HACCP（ハサップ）とは、原料の受入から製造、製品の出荷までの一連の工程において、食中毒などの健康被害を引き起こす可能性のある危害要因を科学的根拠に基づいて管理する方法です。食品衛生法の改正により、一般的衛生管理に加え、HACCPに沿った衛生管理の実施を、原則として全ての食品等事業者にと求められています。

組合員活動・食育・平和の取り組み

普段のくらしのコミュニケーション、情報交換の場づくり

くらしに関わる商品、環境、平和、子育て支援などをテーマに、東部・中部・西部の各エリア会が主体となり様々な活動を行いました。組合員が主体となって活動する「コープ会」「コープくらぶ」「子どもにここくらぶ」では、発行される通信を通じてCO・OP商品の学習やコミュニケーション活動が進みました。

また、年に2回取り組んでいる「だれとでもおしゃべりパーティー」では、のべ1,800を超えるパーティーが開催され、組合員以外の方とも生協商品を囲んで楽しくおしゃべりする機会を作りました。

さらに、CO・OP共済連の健康づくり支援企画として、地元で活躍するスポーツ団体「ガイナール鳥取」、実業団バドミントンチーム「チアフル鳥取」の選手と組合員が交流を行うイベント、地域の清掃と健康促進を兼ねた「ウォーキング&グリーン活動」、「健康づくり教室」なども実施しました。



ガイナールレとの集合写真

声 The Voice

「みんなで楽しく!Let's Play バドミントン」に参加したら、子どもが想像の100倍楽しい表情をしていてとてもうれしかったです。参加した子どもの中では小さい方でしたが、選手の方々が本当にやさしくしてくださり感謝しています。

食育の取り組み

食べることの楽しさや元気な体づくり、作る人への感謝の気持ちを育むきっかけづくりをお手伝いしている「たべる*たいせつキッズクラブ」に、126家族208名の登録をいただきました。(2023年度)

季節ごとに旬の食べものを学ぶキッズブックと食育やクッキング報告を掲載した通信、生協商品を使った親子調理の食材配布を実施しました。また、産地提携米の田植え・稲刈り体験、海産物のきむらや工場見学、恵方巻きづくり等のオリジナルイベントを開催しました。



みんなで恵方巻をつくらう体験

声 The Voice

「みんなで恵方巻をつくらう」恵方巻づくり初挑戦、家ではすぐ口をだしたくなりますが、思い思いに作らせてもらい満足そうな顔をしていました。

平和への取り組み

7月に東部・中部・西部の各エリアで「平和のつどい」「ピースリレー」を開催し、被爆体験講話、折り鶴昇華再生事業など、関係団体と協力しながら平和について触れる取り組みを行いました。「平和のための戦争展」実行委員会に参加し、8月に被爆ピアノ演奏会、写真、絵画パネル展示、11月に「松元ヒロ笑ライブ」を開催しました。4年ぶりに実施した「ピースアクションinヒロシマ」では、組合員とご家族5名、職員が被爆地広島を訪問し、被爆の実相や平和について学びました。千羽鶴の糸通し作業への協力を組合員に呼びかけ、千羽鶴1万6千羽を「原爆の子の像」に寄贈することができました。毎月発行している通信「LOVE&PEACE」を通して、平和の取り組み紹介や、トルコ・シリア地震、ガザ人道危機などの募金の呼びかけを行いました。



バトンとなる横断幕を島根県へ受け渡す様子

復興支援の取り組み

人々がつながり合い、助け合い、平和で持続可能な社会づくりを実現するため、近年多発する自然災害を「たすけあい」の心でともに支え合い、緊急募金の実施、継続的な支援が必要な場合や緊急時に即応する事を目的に「虹のかけはし(鳥取県生協災害支援基金)」に寄付を積み立て、協議を経て拠出しています。

「虹のかけはし」からの拠出

2023年	7月	東日本大震災県内避難者への訪問活動のための訪問セット	3,344円
2023年8月・10月		福島ひまわりプロジェクト in鳥取「お絵かき教室」「収穫祭」	4,037円
2023年	10月	県内被災者交流事業「芋煮会」	7,204円
2023年	12月	県内被災者交流事業「クリスマス会」	6,517円
2023年	7月	トルコ・シリア地震	150,000円
2024年	1月	リビア洪水	150,000円
2024年	2月	令和6年能登半島地震	150,000円

緊急募金

2023年	7月	トルコ・シリア地震	1,786,600円
2024年	3月	ガザ人道危機	1,642,560円
2024年	2月	(2024年1月29日～3月30日) 令和6年能登半島地震	4,036,300円

生活支援の取り組み

くらしのサポート総合窓口

日常的な困りごとや相談をお聞きし、解決を支援するため、生協の事業・活動のほか、行政のサービスや関係団体につなぎ、地域ぐるみで困りごとを解決していくための窓口です。漠然としたくらしの不安や孤独や介護などの話し相手のほか、行政や社会福祉協議会ほか関係団体への取り次ぎや関係づくりの窓口としています。



くらしのサポート総合窓口
(ココステーション米原(米子市)に併設)

くらし助け合いの会

住みなれた地域で安心して暮らし続けられるよう、ちょっとしたくらしの困りごとを組合員同士が手助けし合う仕組み(有償ボランティア)です。鳥取県生協の組合員であれば、だれでも参加できます(入会、年会費はありません)。



庭の草取りの様子

(主な活動内容の一例)
子守り、調理、掃除、衣替え、草取り、墓掃除、必要書類の作成や手続きの補助、生協注文用紙記入など。

声 The Voice

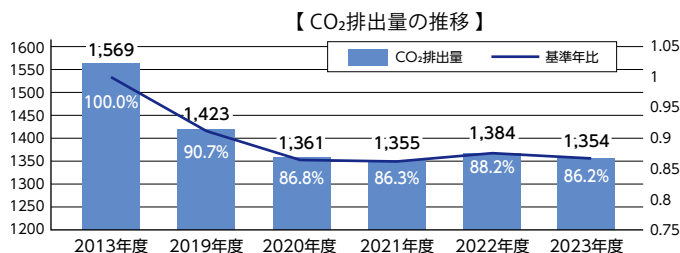
買い物の代行や草取りをお願いしています。組合員どうしのつながりがあります。

社会貢献活動

温暖化防止とCO₂削減の取り組み

2023年度のCO₂排出量は、前年度より30トン減少し、1,354トンと前年比97.8%の実績でした。電気、車両用ガソリンの使用量は減少していますが、商品センター内のLPG使用量、配送車両軽油、OA用紙使用量は増加しました。

鳥取県生協ではSDGsの関係を整理して今後の行動指針を設定し、2030年に向けた取り組みを強化するために「鳥取県生協のSDGsアジェンダ」策定しました。地球温暖化防止と持続可能地域づくりに貢献するために温室効果ガスを2030年度までに2013年度比で46%削減を目標とします。



【2023年度 鳥取県生協の環境負荷】

		前年比	前年差
●電気	1457,426 k Wh	96.4%	-53,316kWh
●LPG (商品センター空調用)	1,671㎡	107.1%	+112㎡
●車両燃料			
ガソリン	32,858 ℓ	97.6%	-799 ℓ
軽油	148,850 ℓ	100.4%	+564 ℓ
●OA用紙	16,497kg	115.7%	+2,235kg

		前年比	前年差
●CO ₂ 排出量	1,354 t	97.8%	-30 t
●一般廃棄物	8,336kg	97.4%	208kg

自然エネルギーの利用

太陽光発電設備を商品センター、東部支所、中部支所、西部支所に設置しています(中部支所、西部支所は2024年度可動予定)。鳥取県生協も出資する「鳥取みらい電力」出資自治体への電力供給を開始、今後の生協施設への電力供給、家庭向け販売等について定期的に協議を行っています。



鳥取みらい電力 売電開始式の様子

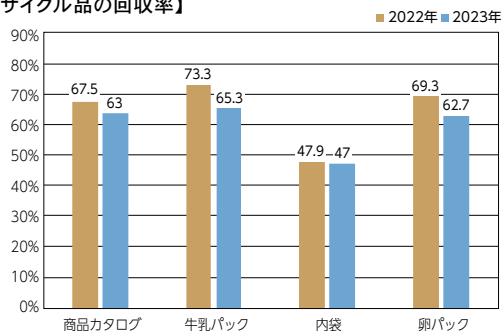


太陽光パネル (中部支所)

組合員のリサイクル活動

配送時にお渡しする商品カタログや、紙パック、内袋(お届け商品が入っている袋)、卵パック等の回収リサイクルに取り組んでいます。

【リサイクル品の回収率】



コープCSネットエコセンターの取り組み

知的障がい者の方々を雇用しながら、中国5生協のリサイクル品(カタログ、牛乳パック、内袋)を集約、圧縮加工を行い資源リサイクル業者へ売却する事業を行っています。



県内の関係団体との活動

● CO・OP虹の森

2009年より「とっとり共生の森」事業に参画し、鳥取県、倉吉と維持管理契約を結んで倉吉市富海のまきばでの森林保全活動・育林活動を進めてきました。2023年度は天候不良のため中止となりましたが、2024年2月に新たに5年間の協定を結びました。今後も地域の関係団体や地元の方との交流を大切にし、森林保全・育林活動を継続しながら地球温暖化防止に向けて活動を行っていきます。



共生の森キャラクター
とどみん



2022年度 CO・OP虹の森

● ふなおか共生の里づくり

2011年3月、県内13団体と「ふなおか共生の里づくり活動協定」を結びました。この活動は鳥取県が進める「とっとり共生の里」づくりの一環で「食と農をつなぎ、美しい里山を再生し、生産者と消費者、都市と農村の連携交流といった取り組みを行うことにより、賑やかで元気な地域をつくっていくこと」を目的としています。

2021年で10年目を迎え、活動を継続し、さらに地域づくりを進めるために、協定書の再締結が行われました。



ふなおか共生の里づくり活動協定調印式



芋ほりの様子

● みんなの牧場

「(株)みんなの牧場」は、酪農業の生産量の確保や後継人材育成などを図り、鳥取県畜産農協や鳥取県生協、酪農家が出資し、2018年2月に事業がスタートしました。2023年度で事業開始から6年目を迎えました。2024年2月現在で成牛が647頭(搾乳牛560頭、乾乳牛87頭)、後継牛が366頭(育成牛150頭、預託牛216頭)となり、成牛と後継牛と和牛で合計1,102頭がみんなの牧場の保有牛となっています。成牛は目標水準の600頭に到達し、保有頭数は順調に推移しています。2023年も猛暑による影響もありましたが、年間乳量は目標4,500tを大きく上回る5,500t以上を想定しています。また、バイオ発電も順調に進んでおり、方針上の取り組みは計画通りに進んでいます。飼料代やその他資材については今後も高騰が続くと予想されますので、更なる乳量の確保に向けて取り組んでいきます。鳥取県生協は今後も運営協議会へ参加し、運営状況についての情報をお届けします。



サンゴ礁の海を守り育む活動

海水温の上昇により、サンゴの「白化現象」が起これ沖縄の海は危機的な状況です。鳥取県生協を含む中四国生協から始まった「もずく基金」の取り組みは全国に広がり、サンゴ礁再生の取り組みを中心に、沖縄の豊かな海を守る活動を行っています。

2023年度鳥取県生協から14万3千円を恩納村へ寄贈しました。

※もずく基金…もずく基金対象商品を購入すると、1商品につき1～2円が基金に積み立てられて「サンゴ礁再生事業支援協議会(恩納村漁協)」に寄付され、沖縄の豊かな海を守る活動に使われます。



糸もずく収穫の様子



もずく入りぎょうざ



もずくのおみそ汁

エシカル

エシカル—Ethical—とは、直訳すると「倫理的」という意味です。生協では地域や環境、社会や人々に配慮してモノやサービスを買うことを「エシカルなお買い物」（エシカル消費）と表現し、「誰かの笑顔につながるお買い物」を積極的に応援しています。

生協ではエシカル消費を「地域」「環境」「社会」「人々」の4つの視点ですすめています。

※以下の取り組みは一例です。

1 豊かな**地域**を作り出せたら

コープ商品は、生産者とのつながりや国産原料の使用拡大を通じて、日本の農畜水産業を応援します。

日本の農業を
応援する

国産素材
主要な原料に国産素材を使用している商品につけられるマーク。



商品の一例

2 地球の**環境**を守り続けることができたなら

環境配慮は、生協の歴史の中でも大きなテーマです。
毎年、環境配慮商品の開発目標を決めて積極的に取り組んでいます。

漁期や漁獲量などを
制限し、
水産資源を守る

持続可能な漁業で獲られた
水産物につけられる
認証ラベル。



商品の一例

3 公正な**社会**の仕組みが作り出せたら

商品を通じて、社会インフラの改善や
社会的公正の実現などにつながるテーマです。

フェアな
価格で
生産者を
守る



国際フェアトレード
基準に基づいて認証
を受けた商品につけ
られた認証マーク。



商品の一例

*フェアトレードとは…発展途上国の農産物や製品などを市場価格で買い付けるのではなく、農家の生活が成り立つように考慮した「フェア（公正）な価格」で継続的に輸入し、消費する取り組み。

4 **人々**の「生きる」を支えることができたなら

くらしの問題の改善やハンディキャップを持つ
人々の支援などにつながるテーマです。

挑戦する人々を応援

応援食クッキー1袋につき1円を特定非
営利活動法人「日本障害者スキー連盟ノ
ルディックスチーム」に寄付し、次世
代を担うジュニアチームの合宿などに活
用されます。



商品の一例

SDGs・エシカルチャレンジ

毎年、夏と冬に“自分にもできるエシカルな取り組み”に挑戦する「SDGs・エシカルチャレンジ」を実施しています。2023年度は、361名の組合員が挑戦しました。



声 The Voice

このチャレンジを始めてから、エシカルなマークを気にして購入するようになりました。これからも自分ができることをしていきたいです。

地域支援活動



米子市永江地区自治連合会と「地域支援活動に関する協定締結式」



JA鳥取中央と「持続可能な地域社会づくりに向けての連携協定締結調印式」

2022年4月に、米子市永江地区自治連合会と「地域支援活動に関する協定」を締結しました。自治連合会が運営されている「支え愛の店ながえ」を拠点に、お弁当や個人配達、くらし助け合い活動などで当組合が寄り添い、住民主体での地域づくりをすすめます。

2023年3月には、JA鳥取中央と「持続可能な地域社会づくりに向けての連携協定締結調印式」を行いました。互いの特性を生かし、地域住民の買い物支援や組合員及び地域住民のくらしに寄り添った事業を展開し、「持続可能な地域社会づくり」に一層貢献してまいります。

中山間集落見守り活動

「鳥取県中山間集落見守り活動」は中山間地域等で活動する事業者と行政機関が連携して、中山間地域住民の異常などを早期発見し、情報連携して適切な対応ができる体制を整備し、「安全で安心して生活できる地域づくり」を目的とした取り組みです。

鳥取県生協では、この活動に賛同して県内の全市町村と協定を交わし、地域見守り活動を実施しています。

主な活動は配送ルート（月曜日から金曜日まで）で起きた異常を、連携する行政の窓口に通報することです。



配送のようす



声 The Voice

見守り活動や生協のネットワークがうまく機能することが望ましい。生協に入っていないでも生協のトラックが走っているのを見ると安心するという声もいただいています。（自治体訪問での声）

子ども110番

鳥取県教育委員会の後援を受けて、生協配送トラックなどでの県内パトロールをはじめ、生協施設県内17ヶ所を子ども達の緊急避難場所、警察への通報場所として定め、地域社会への貢献を目指しています。



声 The Voice

地域の子どもやお年寄りを守っていくことが大切だと感じます。

障がい者サポート

障がい者就業支援機関と情報を連携し、就業体験の受け入れ態勢や求人内容の整備を行いました。

「あいサポーター(障がい者サポーター)」について役職員が学習を行い、障がいのある方が暮らしやすい地域社会(共生社会)の実現に向け取り組みをすすめています。



声 The Voice

母の介護をしているとき認知症サポーター養成講座を受けたことがあります。(組合員さんからの声)

フードサポート事業

フードサポートの取り組みでは、食の支援を必要としている方に鳥取県生協の予備食品を活用し、行政や社会福祉協議会を通じて、生活困窮者自立支援に役立てられています。また「鳥取市地域食堂ネットワーク」、「とっとり子どもの居場所ネットワーク“えんたく”」の一員として県内の地域・子ども食堂へ提供する活動を継続しています。



フードドライブ事業



協力企業や組合員からいただいた寄贈食品

フードドライブは、家庭で食品ロスにつながりそうな食品をお預かりし、地域の福祉団体や施設、フードバンクなど支援団体を通して食の支援を必要とする方や地域・子ども食堂などで活用いただく活動です。鳥取県と連携し、「鳥取県せいきょうまつり」やココステーションでの受付、県内のお取引先にもご協力いただき、2023年度は2,263点(3.6t)の寄付食品が集まりました。

声 The Voice

食品ロス削減と福祉活動の両方が出来て良かったと思います。(組合員さんからの声)

職場環境の整備、安全運転の取り組みなど

安全運転の取り組み

交通事故や交通違反の防止を目的に、「安全運転管理者会議」を毎月開催しています。会議では運転中の「ヒヤリハット」事例等を共有するとともに、事故の未然防止対策を協議し防衛運転に繋げる取り組みを行っています。また、新入協の職員には自動車教習所での安全運転講習や内部トレーナーによるOJTを実施しています。



配送前の車輛点検

配送効率の見直し

配送効率の改善を実現するために、マップシステムを導入し、このシステムを活用した配送コースの見直しを随時行っています。配送効率の改善により、配送移動距離を短縮し、燃料削減や排出CO₂の削減を目指しています。



マップシステムを活用した配送効率の改善

男女共同参画の取り組み



2005年3月「鳥取県男女共同参画推進企業」の認定を受けたのをはじめ、「ファミリーフレンドリー企業」労働局長賞の受賞、「鳥取市次世代育成優秀企業」の表彰、また、2017年3月には「鳥取県輝く女性活躍パワーアップ企業」にも登録されました。今後も男女とも働きやすい職場環境づくりをめざしていきます。

鳥取県生協のSDGsアジェンダ

スローガン「みんなが幸せにくらせる社会を目指して」のもと、

「福祉」「エシカル」「環境」「平和」をキーワードに具体的なアクションプランとして4つの行動指針で構成しています。

また、共通の基本概念として「パートナーシップで目標を達成しよう」を掲げています。

行動指針01 福祉のSDGs

一人一人が自分らしさを発揮し、
お互いに認め合い、助け合いながら
よりよい暮らしを共に創造し、
みんなが幸せにくらせる社会を目指します。

- 鳥取県生協が、暮らしと健康を支える生活インフラとして地域に欠かせない存在であり続けるために、自治体や諸団体との連携を大切にしつつ、誰もが安心して利用しやすい事業やサービスを創るための取り組みを継続し地域社会づくりに参加します。
- “参加がもたらす価値”を共有し広げながら、組合員一人一人の多様性を尊重し支え合える組合員活動を目指します。
- 職員みんなが健康で元気にそれぞれの個性を認め合いながら活躍できる職場をつくります。



対応する主なSDGs



対応する主なSDGs

行動指針03 環境のSDGs

豊かな地球環境を未来のこどもたちへ
つなげていくために、自然と共生し、
脱炭素と循環型の社会を目指します。

- 省エネルギーや再生可能エネルギーの開発・導入等を通して、地球温暖化防止と持続可能な地域づくりに貢献します。鳥取県生協の事業活動から排出される温室効果ガス(CO2)を、2030年度に2013年度比で46%削減します。
- 食品ロスや使い捨てプラスチック削減の取り組みをすすめます。また、共同購入のカタログ、牛乳パック、商品袋などの回収リサイクル運動を促進します。
- 組合員とともに環境保全活動を推進し自然共生社会を目指します。

行動指針02 エシカルのSDGs

持続可能な生産と消費のために、
つくる責任つかう責任を考へて
行動し、商品とくらしのあり方を
見直していきます。

- 人や社会、地域、環境に配慮した商品の利用普及や理解を広げる活動をすすめ、「エシカル消費」を推進していきます。
- 生産者・産地やメーカー・取引先と組合員・職員との交流を深め、持続可能な生産と消費に向けて、それぞれの想いや責任を共有実感できる取り組みをすすめます。
- 健康づくりの視点で、安心安全な商品づくりとともに、食のつくり手への感謝の気持ちや元気な体づくりを育む食育の活動をすすめます。



対応する主なSDGs



対応する主なSDGs

行動指針04 平和のSDGs

世界から飢餓や貧困をなくし、
戦争や核兵器のない
世界平和の実現を
目指す活動をすすめます。

- 世界中の飢餓や貧困などの様々な問題についての理解を深め、ユニセフ協会などと連携して世界の子どもたちを支援します。また、生活困窮者や子ども食堂への支援に取り組みます。
- 核兵器廃絶、被爆・戦争体験継承の取り組みを通じて、日本国憲法の基本原則である平和主義を大切に平和な社会を目指す活動をすすめます。
- 自然災害などによる被災地の復興支援活動に取り組みます。災害に備え防災・減災の学びや自治体・諸団体との連携をすすめます。



パートナーシップで
目標を達成しよう



鳥取県生活協同組合

本部所在地／鳥取県鳥取市河原町布袋597番地1

TEL 0858-85-0001 FAX 0858-85-0002

<https://www.tottori.coop/>



この印刷物は再生紙を使用しています